

Offshore

No.203

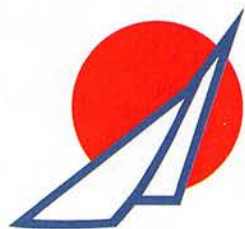
MAY

1992

5



コルム ジャパンカップ



**CORUM JAPAN CUP
INTERNATIONAL
OFFSHORE SERIES 1992**



国際外洋ヨット選手権シリーズ1992

CHAMPAGNE MUMM
WORLD CUP 1992

OFFSHORE RACING WORLD CHAMPIONSHIP



One Ton Pacific Championship 1992



“チャチャII” クラス2連覇達成！
IOR総合は“コルム・ルビー”（仏）
IMSでは“ドリームピック”がそれぞれ優勝。

今年で10回目を迎えたJAPAN CUPは秋から春に日程を変更。RO RCならびにORCの公認レガッタとなり、シャンペン・マム・ワールドカップ／環太平洋サーキット第3戦として位置づけられた。

このワールドカップは、1年交代で太平洋と大西洋で行うもので、今年は環太平洋サーキットの年。第1戦／サザンクロス・カップ、第2戦／チャイナシーレースに次いで、ジャパンカップはその第3戦（第4戦は今夏に行われるケンウッドカップ）。また、IORワントンクラスでは、「ワントン太平洋選手権シリーズ1992」も兼ねることとなり、内容的には従来と比べ、より一層の国際化が図られた結果となった。

レースは、比較的風に恵まれた展開となり、昨年のアドミラルズ・カップの優勝チームが乗る“コルム・ルビー”が定評通りの実力を発揮。よく健闘した“ドンキーVI”を抑えてIORクラスAならびにIOR総合優勝をものにした。

また、IORクラスBでは“チャチャII”が全レースでトップ。文句のないクラス完全優勝、2連覇をなし遂げ、IMSクラスでは、新鋭“ドリームピック”が安定したレース運びで優勝した（次号でレース関連記事の特集します）。

※総合成績は9ページ

前回のアドミラルズカップ優勝チームが乗る“コルムルビー”を迎え撃った、ア杯ニッポンチャレンジの南波 誠が乗る“ドンキーIV”（写真手前）。前方は“シエスタ”

写真／市川和彦

CORUM JAPAN CUP INTERNATIONAL OFFSHORE SERIES



アドミ優勝の実力を存分に発揮したIOR総合優勝の“コルムルビー”



今年も圧倒的な速さでIORクラスB優勝の“チャチャII”



新鋭“ドリームピック”はIMSクラス優勝を果たした



前回に続いて参戦した唯一の50フッター“コルムJ”



ワントン太平洋選手権も同時に行なわれた

20年ぶりの快挙！

第11回沖縄～東京レース

沖縄復帰20周年記念となった、今回の沖縄～東京レース。まず、“ラッキーレディV”が、これまで20年間破られなかった“チタ”のコースレコードを破ってファーストフィニッシュ。

続いて、“ココリンIII”も“チタ”の記録を上まわる速さでフィニッシュしてIMS優勝を果たした。

“ラッキーレディV”が更新したコースレコードは100時間を切る快挙（98時間53分05秒）。次にこれを破るのは、誰であろうか……。

城ヶ島でフィニッシュに向かう“ラッキーレディV”

写真／市川和彦





コースレコードを更新してファーストフィニッシュの“ラッキーレディV”



IMS優勝の“ココリン”上とIOR優勝の“ハーftime”下



真の外洋レーサーに告ぐ

“ラッキーレディV” オーナー

稲葉文則

第一回の沖縄レース、“チタ”のコースレコード108時間32分を20年間破る事ができなかった日本の外洋レーサー達。

我がラッキーレディチームは、昨年の鳥羽パールレース180マイルを17時間半で駆けぬけ、冬の嵐をのり越えグアムレースでIMS優勝を果たした。

そして今回、この勢いをもって、“チタ”の偉大な記録を破り、昨今低迷する外洋レースに活を入れるのが、我々にあたえられた使命だった。

幸い、艇とクルーと風と運に恵まれ、ついに大望の100時間を切る98時間53分のコースレコードを達成できた。

我と思わん日本のヨットマン達、日本外洋帆走協会の名にふさわしいレーサーとしてこの記録を破ってください。それが今冬海で散った同朋レーサーに捧げる最大の鎮魂碑となりうるであろう。

合掌

どっこい沖縄レース

編集長 朝河 清

昨年来、当オフショア誌は沖縄レースロングオフショアキャンペーンを続けてきた。結果はIORクラス3艇、IMSクラス3艇のエントリーであった。IMSクラスではファーストホームをした“ラッキーレディ五世”が、勝利は逃したものの20年間破れなかった記録を更新した。IMSクラスで優勝した“ココリン”も記録を破っていた。“ドンガメ”は渡辺修治提督自ら回航から乗り込み、72歳ここにありと気概を示していた。高年齢化してきた、NORC会員の範とすべき快挙である。

IORクラスでは、沖縄レースで欠く事のできない常連の“さしば”、そして中央大学山岳部OBでまとまり最近若返りを図ったチーム“あずさ”。ロングオフショア大好き人間の集まり、過去2回の八丈島レース優勝の経験を生かし抜群のコース引きで神子元島では先行するハーフタイムを視認し大いに盛り上がったが、フィニッシュ直前のカームに泣いた。

ロシアの友人2人を乗せて“ラッキーレディ五世”と共にグアムから転戦してきた“ハーフタイム”は、この勝利で500マイル以上の本部IORレース、日本海レース(ナホトカー

室蘭)、東京小笠原レース、グアムレース、沖縄レースの4つ全部の1位をとる壮挙を成し遂げた。

参加者こそ少なかったものの、NORC発足の原点に帰った、参加者中心の中身の濃いものであった。

参加艇による実施要項と帆走指示書の作成、現地沖縄参加艇の方々の準備と各方面への根回し、おかげで回航組はなんの不自由なく準備にレースに没頭できた。

参加全艇はグアムレースの教訓を生かし、安全対策、艇の整備に万全を期していた。事故もなく無事レースが終了したのは大変喜ばしいことである。これからのオフショアレースはどうなるのだろう。今回の参加艇をみても、新規参加艇は皆無であった。この沖縄レース開催時、ジャパンカップ、日本ミドルボート選手

権、オレンジカップ、その他数々のレースがいたるところで行われていた。それぞれの艇が、自分の思考とスタイルにあったレースを選んで参加している。ロングオフショアレースは思いつきや衝動で参加できるものではない。積み上げた経験と周到な準備、チームの和、多額の資金を必要とする。あだやおろそかに煽って良いはずがない。参加艇を多をもって良しとせず、参加できることが名誉とし、それに相応しい艇が参加する基盤整備が必要と思う。

IMSの登場により、いっそう健全で安価な艇でも、年式を経た艇でも新艇と対等に競えるという図式に大変興味をおぼえるが、当初の目論みどおりあってほしいものだ。オフショアレース隆盛の可否はこの辺にあると思うが如何に。



スタート後、一路東京を目指す参加各艇

沖縄復帰20周年記念 第11回沖縄～東京レース総合成績

IORクラス

SAIL	艇名	オーナー名	TYPE	CL	Rft	TA	所要時間	修正時間	着順	順位
3001	HALF TIME	朝河 清	YOK-35	1	25.93	181.5	04.18:55'43	03.01:05'33	1	1
2221	AZUSA	杉村 直樹	YOK-33	1	24.53	194.5	05.00:31'31	03.03:40'56	2	2
1827	SASHIBA 3	城間 祥行	FC12	1	30.83	143.0				

IMSクラス

SAIL	艇名	オーナー名	TYPE	CL	TA	所要時間	修正時間	着順	順位
3755	COCORIN 3	識名 朝典	EL10.6	1	494.0	04.05:23'45	03.21:36'11	2	1
4591	LUCKY LADY 5	稲葉 文則	JONS 12	1	460.2	04.02:53'05	04.02:53'05	1	2
120	DONGAME 8	渡辺 修治	WAT 36	1	521.6	05.02:23'56	04.12:14'34	3	3

SEIYO MARINE NETWORK PRESENTS

第7回相模湾JBCオープンヨットレース

開催日：1992年6月7日(日)[参加者募集中]

種 目：クルーザー

参加対象：アマチュアヨット愛好者すべてを対象とします。

参加費用：1艇につき8,000円(8人まで)/9人以上の場合は1人追加ごとに1,000円

表 彰：参加者全員に参加賞、各クラス1位～3位にトロフィー、4位～6位に楯、他特別賞を多数用意しています。

締 切 日：5月31日(日)

■主催：株式会社朝日海洋

■主管：社団法人日本外洋帆走協会関東支部 STC(セールポート・トレーニング・クラブ)

■後援：神奈川県、三浦市

■協賛：株式会社西洋環境開発

■協力：逗子マリーナ、葉山マリーナ、シーボニア

お申し込み／お問い合わせ：相模湾JBCオープンヨットレース事務局 0468-82-1212(朝日海洋シーボニアマリーナ内)

The 7th SAGAMI-WAN JAPAN BAY CUP OPEN YACHT RACE

世界は、海でつながっている



朝日海洋



コルムジャパンカップ1992総合成績

CLASS IOR

SAIL	YACHT NAME	OWNER	TYPE	CL	Rft	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	RACE 5	TOTAL	POS
1255	CORUM RUBIS	CORUM	J/V 45	1	35.05	14.25	13.00	19.500	14.25	28.50	89.500	1
4789	CHA CHA 2	A.YAMAMURA	FARR40	2	30.55	12.00	11.00	21.375	12.00	24.00	80.375	2
3215	DONKY 6	S.DOI	FARR45	1	35.21	13.00	14.25	18.000	7.00	26.00	78.250	3
4735	SIESTA	M.KAWAGUCHI	R/P 44	1	35.22	11.00	9.00	1.500	11.00	18.00	50.500	4
3606	BOY	T.YAMADA	FARR40	2	30.55	7.00	2.00	3.000	10.00	20.00	42.000	5
4033	ARECAN BAY	Y.GOTO	FARR40	2	30.34	9.00	6.00	3.000	6.00	16.00	40.000	6
4790	CORUM J	H.HASHIBA	N/M50	1	40.43	4.00	10.00	3.000	8.00	12.00	37.000	7
1725	SUMMER GIRL	M.BANBA	FARR40	2	30.21	5.00	3.00	3.000	3.00	22.00	36.000	8
3705	MATENROW	O.AOYAMA	YOK40R	2	30.55	2.00	8.00	3.000	9.00	10.00	32.000	9
4500	KARASU	Y.NANAMORI	TAKI40	1	30.70	10.00	1.00	3.000	13.00	4.00	31.000	10
2211	CARINO 8	K.FURUKAWA	FAR39	2	30.38	1.00	4.00	3.000	4.00	14.00	26.000	11
4272	PROPAGANDA	K.ISHIWATA	FARR40	2	30.48	3.00	7.00	3.000	5.00	8.00	26.000	12
3553	SWING	S.SUZUKI	J/V 45	1	35.04	8.00	12.00	3.000	1.00	2.00	26.000	13
4305	BLUE NOTE	S.IKAI	FARR40	2	30.55	6.00	5.00	3.000	2.00	6.00	22.000	14

IOR CLASS A

SAIL	YACHT NAME	OWNER	TYPE	Rft	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	RACE 5	TOTAL	POS
1255	CORUM RUBIS	CORUM	J/V 45	35.05	6.25	5.00	9.375	6.25	12.50	39.375	1
3215	DONKY 6	S.DOI	FARR45	35.21	5.00	6.25	7.500	2.00	10.00	30.750	2
4735	SIESTA	M.KAWAGUCHI	R/P 44	35.22	4.00	2.00	1.500	4.00	8.00	19.500	3
4790	CORUM J	H.HASHIBA	N/M50	40.43	1.00	3.00	3.000	3.00	6.00	16.000	4
4500	KARASU	Y.NANAMORI	TAKI40	30.70	3.00	1.00	3.000	5.00	4.00	16.000	5
3553	SWING	S.SUZUKI	J/V 45	35.04	2.00	4.00	3.000	1.00	2.00	12.000	6

IOR CLASS B

SAIL	YACHT NAME	OWNER	TYPE	Rft	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	RACE 5	TOTAL	POS
4789	CHA CHA 2	A.YAMAMURA	FARR40	30.55	8.25	8.25	12.375	8.25	16.50	53.625	1
4033	ARECAN BAY	Y.GOTO	FARR40	30.34	7.00	5.00	1.500	5.00	10.00	28.500	2
3606	BOY	T.YAMADA	FARR40	30.55	6.00	1.00	1.500	7.00	12.00	27.500	3
1725	SUMMER GIRL	M.BANBA	FARR40	30.21	4.00	2.00	1.500	2.00	14.00	23.500	4
3705	MATENNROW	O.AOYAMA	YOK40R	30.55	2.00	7.00	1.500	6.00	6.00	22.500	5
4272	PROPAGANDA	K.ISHIWATA	FARR40	30.48	3.00	6.00	1.500	4.00	4.00	18.500	6
2211	CARINO 8	K.FURUKAWA	FAR39	30.38	1.00	3.00	1.500	3.00	8.00	16.500	7
4305	BLUE NOTE	S.IKAI	FARR40	30.55	5.00	4.00	1.500	1.00	2.00	13.500	8

CLASS IMS

SAIL	YACHT NAME	OWNER	TYPE	CL	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	RACE 5	TOTAL	POS
4722	DREAMPIC	T.OKADA	FARR44	1	7.25	7.25	1.50	7.25	10.00	33.25	1
4241	G'NET	S.KANBE	J39	1	3.00	5.00	1.50	5.00	14.50	29.00	2
4700	BE-ONE	K.GODA	TAY43	1	5.00	* 1.00	1.50	6.00	12.00	25.50	3
1579	SHOHGAKUBO'S	K.JINBO	MUI40	1	4.00	6.00	1.50	4.00	8.00	23.50	4
3335	ORIHIME	Y.FURUKAWA	FRE41	1	2.00	4.00	1.50	3.00	6.00	16.50	5
4097	MICKY 3	M.MIYUKI	X 119	1	6.00	* 3.00	1.50	1.00	2.00	13.50	6
2112	FUJI 3	T.FUJIMOTO	FRE45	1	1.00	2.00	1.50	2.00	4.00	10.50	7

* 15% PENALTY, * 5% PENALTY

ONE TON PACIFIC CHAMPIONSHIP 1992

SAIL	YACHT NAME	OWNER	TYPE	Rft	RACE 1	RACE 2	RACE 3	RACE 4	RACE 5	TOTAL	POS
4789	CHA CHA 2	A.YAMAMURA	FARR40	30.55	8.25	8.25	12.375	8.25	16.50	53.625	1
3606	BOY	T.YAMADA	FARR40	30.55	6.00	1.00	1.500	7.00	12.00	27.500	2
4033	ARECAN BAY	Y.GOTO	FARR40	30.34	7.00	5.00	1.500	4.00	10.00	27.500	3
1725	SUMMER GIRL	M.BANBA	FARR40	30.21	4.00	2.00	1.500	2.00	14.00	23.500	4
3705	MATENNROW	O.AOYAMA	YOK40R	30.55	2.00	7.00	1.500	6.00	6.00	22.500	5
4272	PROPAGANDA	K.ISHIWATA	FARR40	30.48	3.00	6.00	1.500	4.00	4.00	19.500	6
2211	CARINO 8	K.FURUKAWA	FAR39	30.38	1.00	3.00	1.500	3.00	8.00	16.500	7
4305	BLUE NOTE	S.IKAI	FARR40	30.55	5.00	4.00	1.500	1.00	2.00	13.500	8

第33回鳥羽パールレースへのお誘い

本部帆走委員会

本年度鳥羽パールレースは以下の要項で行います。ふ
るってご参加下さい。尚、鳥羽における泊地に関する詳
細につきましては東京及び東海支部での連絡会議で説明
致します。艇長もしくは代理人の方は必ず出席して下さい。

スタート日時：

Aコース 7月24日(金) 12:00

Bコース 7月24日(金) 12:20

タイムリミット：7月26日(日) 18:00

コース

Aコース 鳥羽→神津島(反時計)→三崎港
(180M)

Bコース 鳥羽→三崎港(150M)

参加資格

Aコース：

1) IORもしくはJORの有効なレーティングを所
有し、ORC-III以上及びNORC-B以上の安全
検査に合格している艇で「鳥羽パール特別規定」と
して①何らかの通信手段を持っていること(連絡会
議で申告) ②ライフラフト搭載のこと。

2) IMSの有効なレーティング証書を所有している
艇。安全に関しては、1)のIOR/JORと同じ。

Bコース：

有効なNORCクルーザーレーティングを所有し、
小型船舶安全検査「沿海区域」以上の検査に合格し、
「鳥羽パール特別規定」として、①何らかの通信手
段を持っていること(連絡会議で申告)。②ライフラ
フト搭載のこと(小型船舶安全検査の浮器は不可)
③乗員分のハーネス及びパラシュートフレア4本を
搭載のこと、を満たした艇。乗員については、小型
船舶安全検査以内とする。

A、Bコース共通

NORCの登録艇または会友艇であり、艇長はN
ORCの会員であること。

乗員数は4人以上であること。また、乗組員の1/
2以上は会員であること。

参加料：出艇料	1艇	6,000円
	(申込締切までに納入して下さい)	
乗員参加料	会員1名	2,000円
非会員及び会費未納者		6,000円
15歳未満		2,000円
	(出艇申告時に納入して下さい)	

参加申込：6月26日(金)18:30までに所定の申込用紙に必要
事項を記入し(東海支部へはハガキで)、出艇
料を添えてNORCの本部またはNORC東
海支部事務局にお申し込み下さい。

出艇申告：7月23日(木)10:30～15:00

(時間厳守)

於 鳥羽グランドホテル

提出書類：A、Bコース共通

出艇申告書(2部)、会員証のコピー、「鳥羽
パール特別規定」申告書(連絡会議で配布)

Aコース

NORCの安全検査証コピー

Bコース

小型船舶安全検査証(沿海区域以上)
コピー

艇長会議：7月23日(木)17:00～18:00

於 鳥羽グランドホテル

連絡会議：東京

7月10日(金)18:30～

於 国鉄労働会館8Fホール
東海

7月15日(木)18:30～

於 東海会館 華寿殿

*必ずどちらかの連絡会に出席をお願いし
ます。

国鉄労働会館略図(☎03-3214-9415)



第19回江ノ島・清水レース

スタート	7月11日(土) 13:00
申込締切	6月26日(金)
出艇申告・艇長会議	7月11日(土)

(注) 本誌1月号で告知した鳥羽レースおよび江ノ島・
清水レース日程は、本項のようになりました。

海とヨットの絵二人展

3月27・28・29日の三日間にわたり、平松栄一(顧問会議長)、渡辺修司(前技術委員長)両画伯の展覧会が白崎スタジオ(“ナジャ”オーナー白崎謙太郎氏宅)において行われた。

マアチュア画家としては有名な平松さんの作品は、油壺・小網代等のハーバー風景と最近の旅先(北海道、沖縄、ヨーロッパ等)での近作30余点。渡辺画伯の作品は若冠19才の処女作“須崎の海女”“須崎港風景”をまじえ、歴代“どんがめ”を描いた躍動感あふれる十余点の正にNORCともいえる作品群。

来場各位持参の酒ビンの林が会場

をにぎあわせた。要するに、両画伯をダシにして、海とヨットの絵を肴に酒を飲もうというのが本会の仕掛人達の魂胆であつたらしい。

あいにくの雨天も手伝って、「ヨットに乗りにいけないから…」という来場者もあり、両画伯御夫妻を中心に大いに盛り上がった。



平松画伯(左)と渡辺画伯

渡辺画伯の処女作『須崎の海女』



渡辺画伯による『第1回館山レース、千葉・浮島沖の“どんがめⅣ”』

平松画伯による、小網代のハーバー風景を描いた作品



1992年度関東支部第1回代議員会議事録

社団法人日本外洋帆走協会 関東支部

1 日時

1992年2月15日(土) 1300~1410

2 場所

東京都千代田区霞ヶ関3-2-3
国立教育会館 602会議室

3 出席者

代議員 51名

(出席者 30名)

山本 高靖 石井 竹彦 小黒 公一 前田 泰明
市村 俊明 尾島祐太郎 加藤 正敏 清田 博
中谷 林平 並木 茂士 初鹿野幸生 平田 克己
古川 保夫 別部 尚司 大儀見 薫 蒲谷 和行
藤山 勝済 村本 信男 飯島征四郎 中馬 勇
林 正明 小澤 美弘 安原 達郎 沼田 尚文
三宅 直晴 大田黒俊一 内藤 恒夫 野口 隆司
畑田 晴彦 稲葉 文則

(委任状 21名)

柿島 亮一 橋本 博 倉持 和夫 井上 武
加藤 忠男 斜森 保雄 栢田 政治 北村 勝彦
周東 英卿 高木 信幸 仁藤 勝朗 野村 清
石原 拓治 田中 一美 鳥本 洋一 矢吹 秀邦
藤井 茂 伊藤 秀利 大河原雅之 多田 将三
岩澤 文雄

代議員以外の出席

安岡信一(常任委員・副支部長)
中上川貞次郎(常任委員・財務担当)
川久保史朗(常任委員・諸磯FC)
渡辺正道(常任委員・柏崎FC)
清水栄太郎(監事)

4 議題

- (1) 1991年度事業報告及び収支決算報告
- (2) 1992年度事業計画及び収支予算
- (3) 1991年度関東支部基金報告
- (4) 常任委員及び監事の選出
- (5) その他

5 議事

1300、安岡副支部長の司会により開会、出席代議員は51名で代議員73名の過半数となり定足数を充足していることを確認、並木支部長が議長となり、議事録署名人に小沢、内藤両氏を指名し議事に入った。

議題(1)1991年度事業報告及び収支決算報告 について

中上川総務委員から、資料に基づき1991年度の事業内容について報告があり、さらに、同収支決算について大

要次の報告があった。

91年度の収支概要は、単年度では残念ながら1,679千円の赤字となった。90年度の決算が751千円の黒字決算であったのに比べ、大幅な出超となりこれによって、翌年度繰越収支差額が4,820千円から3,141千円となる。

収入面では、会費収入は対予算737千円で堅調、舟艇登録は対予算55千円の微増、事業収入関係では、レース関係が対予算154千円とほぼ予算同額、スポンサー協賛金も予算通りとなった。以上のように収入は会費収入の対予算差額がほぼ全体の予算差額の内訳となっている。

支出面では、総額で対予算差額2,394千円となっている。費目別では、管理費は人件費と事務所移転に伴う経掛かりで1,488千円の増、事業費は、868千円の増で費目的には増減があるものの、大きく予算超過となっているのは帆走委員会費用である。この原因は特別事業である裕次郎レースが昨年まで単独で約1,000千円強の黒字を計上していたことに対し、今年度は100千円弱と大きく減少した。しかし、パーティは飲食物も多く、実行委員が参加し盛りあげ結果は良かったのではないと思われる。また、総務委員会は昨年度の名簿発行費の支部負担が予算差額の殆どであり、これは予算作成時に時間的な問題で欠落した結果である。

以上が、単年度収支悪化の原因であり、結果として昨年度までの繰越収支差額は、4,820千円から3,141千円に減少した。

なお、この決算関係書類については、2月4日大儀見、清水両監事の監査を受け、適正・正確との監査報告をいただいた。

並木議長から、本案について諮られたが質疑等はなく承認された。

議題(2)1992年度事業計画及び収支予算 について

中上川総務委員から、資料に基づき1992年度の事業計画について説明があり、さらに、同収支予算について大要次の説明があった。

92年度予算については、例年のように12月初旬までに各委員長、フリートキャプテンから要求案を提出していただき、それを基に1月の常任委員会において決算見込みを対比しながら策定した。内容的には、ほぼ前年度実績(見込)を基に計画されている。

収入面では、特記事項は、会費収入関係で今年度より実施される会費値上げの支部配分を加算し、レース参加料を7,500千円と考え、またクルーザーレーティングの計測料値上げと更新制度導入による増加分を見込み、スポ

ンサー協賛金については、今年度と同様に裕次郎メモリアル3,000千円、フリート対抗3,000千円計6,000千円を計画した。

支出面では、管理費等は見込みを基に策定し、事業関係ではクルーザーレーティング委員会関係の支出を年次更新対応のため増加させた。安全委員会についても安全フェスティバル開催予算の増額等を折り込み策定した。その他は管理費同様実績見込みを参考にした。

その結果、92年度予算については、28,400千円と、収支同額を計画することとなった。

なお、実際の運用については、常任委員会及び財務担当で充分内容を吟味し、予算執行を公正かつ適正に行なう所存である。

各代議員等から、質疑提案等があり支部長等から応答があった。大要は次のとおりである。

＊小黒代議員

泊地対策委員会の予算が、昨年実績がないのに今年度30万円となっているが、事業は何か

・安岡副支部長、泊地対策委員長

泊地に関するアンケート調査を実施することとしておりその予算である。

＊清田代議員

- ① 予算は収支同額であるので赤字になる可能性がある。収入増、支出減を真剣に考えなければならない。
- ② 総会開催案内を早めに通知してもらいたい。
- ③ 今年は、代議員選挙の年である。各フリート所属会員名簿の整理を早急にしておく必要がある。

・並木支部長

- ① 収入増については、会費値上げによる支部配分分の増、CR関係の増収、また、事業計画にあるフリート組織の充実会員増による会費増収等を考慮し期待している。
- ② 開催日時は、12月に決定している。郵便による通知は7日～10日前に会員に到着するよう発送しており、オフショアには12月号、1月号両号に連載した。

・清水監事、本部専務理事

- ③ 会員がどのフリートに所属しているかは入会時等における会員の申告で決まる。入会后フリートを変更しても連絡がなければ、コンピュータデータの訂正ができないので入会時に申告した旧フリートに所属していることとなり、また、入会時に無申告であれば無所属ということになる。

フリート変更登録を所定の手続きでしていただくようお願いする。

＊並木支部長

会員証にフリート名を入れることはできないか。

・清水監事、本部専務理事

入れられないことはないと思う。

＊平田代議員

議事録には討論を入れてもらいたい。また、会員が乗っていないのに登録を継続保有している船、また会友艇は増えても特別会員が増えないのは問題であるので、これらについて整理して考えてもらいたい。

＊大儀見代議員、監事

安全に関しては、事業計画でも触れており、予算面でも30万円から今年は50万円に増えている。安全委員会を中心に実質的な安全対策を促進してもらいたい。また、代議員会を定期開催とし早めに日時を設定してもらいたい。

予算面で注目されるのはCR委員会で、昨年の70万円から本年は170万円に増加しているが事業予定が何かあるのか

・中上川総務委員

今年度からCRの年次更新制度が発足することとなり、データ整理の外部発注がある、また、初年度ということ増額することとなった。

このほか質疑等はなく、並木議長から本案について諮られ承認された。

議題(3)1991年度関東支部基金報告 について

並木議長から、本議案は基金総会として審議願いたい旨の発言があり、中上川総務委員から、資料に基づき収支決算、財産目録等大要次の報告があった。

91年度収入は6,518千円、支出は11,100千円であった。支出面では、補助金収支という形で11,000千円の支出があるが、これは、昨年のグアムレース事故関係の諸対策として本部へ支出した費用である。これにより次期収支差額は76,239千円となった。

各代議員から、「補助金収支1,100万円」に関して、諸種の質問があり、並木支部長等から回答があったが、その状況は大要次のとおりであった。

始めに並木支部長から、本件は常任委員会で承認したもののだが、本会での承認をお願いしたい。との発言があった。

＊清田代議員

- ① 関東支部基金を他支部の船の遭難対策に使用するのなぜか。
- ② 他支部には基金はないのか。
- ③ レース委員会が遭難対策保険を契約する必要はないのか。

・並木支部長

- ① 1隻は他支部の船であるが、本部が対策費用として使用するものである。

・清水監事、本部専務理事

- ① 他支部にも基金はあるが、遭難対策を目的としてい

るのは東海、内海で、西内海、は行事対応としているようである。

・安岡副支部長

現在、この費用は本部で使用中であり、当初は、取りあえず1,100万円本部へ貸しましょう、後刻決算後本部から報告を求め常任委員会で検討し決定しよう、というこで補助金収支の名目にしたものである。

*市村代議員

本来は貸付金ではないのか。基金を支出したこと自体には反対しないが、本部の責任で賄われるべきものであるので、本部から使用目的、使用方法等の明確な通知を受けて、それを支部会員に説明して、その上で支出を認める。という方法をとってもらいたい。

・中上川総務委員

貸付金とすると、本部の収支状況が悪く債務超過になるので、補助金の名目にしてもらいたいとの本部の要望があり、このようにしたものである。

*平田、三宅代議員

常任委員会で決めたのはどうかと思う。代議員会レベルの問題と思う。

*大儀見監事、代議員

本件は、形は補助金であるが実質は貸付金ということも、本部財務委員会の説明を受けており、認めようということであり、基金の性格として遭難対策に使用することは本筋であるので、今回の問題点を前向きに検討するという事ではないのか。

基金の目的は、単なる遭難対策のみではなく、その運営は常任委員会と同メンバーで構成する基金運営委員会が行なうこととなっていることを理解していただきたい。

*中谷代議員

かつての初島レース遭難時は、対策費は全部自前であった、と記憶している。今回の支出は正当でやむを得ないことだともう。

*市村、清田代議員

収支が現在不明であるのに補助金の形で支出するのは、納得できない。貸付金として一時処理し、収支が明確になってから会員の了承をとり、その後補助金として処理するという会計措置をとってもらいたい。

・安岡副支部長

法人経理として、負債超過が継続すると問題になる、という本部の説明を受けた。

・並木支部長

常任委員会でも同様な意見が多かったが、本部の苦しいところもありやむを得ずこのような措置をとった。補助金の使途等に関しては後日説明する。

*別部代議員

基金の将来構想を検討してもらいたい。

・並木支部長

早い時期に代議員会を開催し、将来構想を含めた今後の問題等を検討する。

安岡副支部長から、支出名目を含めて本案を了解してもらいたい。

並木支部長から、本案を諮りたい旨の発言があり、承認された。

議題(4)常任委員及び監事の選出 について

並木支部長から、資料常任委員・監事名簿92年度(案)に基づく提案があり、案作成後の変更等について訂正の後、諮ったところ異議なく承認選出、これに基づき支部長が任命した。(常任委員・監事名簿92年度は、本議事録に添付することとした。)

以上をもって審議を終了し、1410、1992年度関東支部第1回代議員会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

1992年2月15日

議 長 並木 茂士 (印)

署名人 小澤 美弘 (印)

署名人 内藤 恒夫 (印)

第36回関東支部総会議事録

社団法人日本外洋帆走協会 関東支部

1 日時

1992年2月15日(土) 1420~1525

2 場所

東京都千代田区霞ヶ関3-2-3
国立教育会館 602会議室

3 出席者

647名(出席44名 委任状603名)

4 議事

安岡副支部長の司会により開会、出席特別会員及び正会員は647名で両会員2,423名の5分の1以上で定足数を充足していることを確認、並木支部長が議長となり、議事録署名人に小澤美弘、内藤恒夫両氏を指名、議事に入った。

5 議題(1)1991年度事業報告及び収支決算報告について

中上川総務委員から、資料に基づき事業実施内容につい

関東支部常任委員・監事名簿 '92年度

No.	役職名	氏名	郵便番号	住所	電話番号	電話番号(勤務先)
1	支部長・総務委員長	並木 茂士	221	横浜市中神奈川区白楽39	045-432-0356	045-432-3927
2	副支部長・泊地対策委員長・総務委員	安岡 信一	210	川崎市幸区南幸町1-33	044-544-7885	044-555-4126
3	副支部長・総務委員	古川 保夫	140	品川区大井5-16-12	03-3777-5434	03-3474-3570
4	総務委員(財務担当)	中上川貞次郎	142	品川区豊町2-3-11	03-3786-8558	03-5484-6043
5	総務委員(IMS担当)	小沢 美弘	235	横浜市磯子区森1-5-21-728	045-752-1558	03-3263-7201
6	フリートキヤブテン(横浜)	橋本 博	221	横浜市中神奈川区神の木台11-21	045-401-1630	045-253-2917
7	フリートキヤブテン(諸磯)	川久保 史朗	190-12	武蔵村山市大南2-114-4	0425-65-0266	0423-41-3290
8	フリートキヤブテン(油壺)	高田 尚之	210	川崎市川崎区日進町1-3-1204	044-966-7423	044-233-1640
9	サブフリートキヤブテン(油壺)	加藤 正敏	248	鎌倉市由比が浜2-6-20	0467-22-4700	0467-22-0133
10	フリートキヤブテン(シーボニア)	蒲谷 和行	140	品川区東大井3-21-28	03-3298-5050	03-3543-0275
11	フリートキヤブテン(小網代)	平賀 威	280	千葉市亀井町10-43	0474-24-7310	03-3499-7600
12	フリートキヤブテン(佐島)	石原 拓治	112	文京区千石3-39-8	03-3941-2804	03-3271-8381
13	フリートキヤブテン(葉山)	田中 一美	236	横浜市中金沢区釜利谷町3710-2	045-701-1000	0463-21-8301
14	フリートキヤブテン(逗子)	沼田 尚文	168	杉並区和泉4-15-25	03-3322-8681	03-3984-3761
15	フリートキヤブテン(江ノ島)	五十井 進	154	世田谷区駒沢3-10-1-220	03-3424-4617	03-3777-5261
16	フリートキヤブテン(下田)	伊藤 秀利	415	下田市3-9-7	05582-2-6922	05582-2-5511
17	フリートキヤブテン(東京)	内藤 恒夫	130	墨田区両国3-2-1 東美商会	03-3632-0525	03-3632-0525
18	フリートキヤブテン(浦賀)	岩澤 文男	236	横浜市中金沢区釜利谷町3796-45	045-782-5787	03-3461-3418
19	フリートキヤブテン(柏崎)	渡辺 正道	945	柏崎市東の輪町4-21	0257-23-6687	0257-23-6687
20	フリートキヤブテン(熱海・伊東)	稲葉 文則	413	熱海市林ヶ丘18-5	0557-82-3492	0557-81-9257
21	安全委員長	前田 泰明	111	台東区清川1-13-13	03-3873-6142	03-3873-6142
22	航海委員長	尾田 英明	249	逗子市池子2-22-6-201	0468-71-4727	0468-71-4727
23	海事思想普及委員長	朝河 清	108	港区白金3-21-7	03-3440-1100	03-3580-7749
24	クルーザーレーティング委員長	鈴木 利夫	110	台東区池之端4-9-2 松下アパルト1F	03-3822-3370	0471-85-7381
25	広報委員長	浅野 英武	240-01	三浦郡葉山町長柄837-8	0468-76-0560	03-3404-6172
26	通信委員長	池内 貞二	239	横須賀市津久井5556-4-501	0468-49-6995	03-3585-4111
27	監事	大儀見 薫	259-01	中郡二宮町山西45	0463-72-3116	03-3818-2852
28	監事	清水 栄太郎	112	文京区音羽2-1-20	03-3947-2340	03-3941-7171

て報告があり、さらに、同収支決算について大要次の報告があった。

91年度の収支概要は、単年度では残念ながら1,679千円の赤字となった。90年度が751千円の黒字決算であったのにくらべ、大幅な出超となりこれによって、繰越収支差額は3,141千円となる。

収入面では、会費収入は対予算737千円で堅調、事業関係ではレース関係が対予算154千円とほぼ予算同額、スポンサー協賛金も予算どおりとなった。以上のように収入は会費収入の対予算差額がほぼ全体の予算差額の内訳となっている。

支出面では、総額で対予算差額2,394千円となっている。費目別では、管理費は人件費と事務所移転の諸掛かりで1,488千円の増、事業費は、868千円の増で費目的には増減があるものの、大きく予算超過となっているのは帆走委員会費用である。この原因は特別事業である裕次郎レースが昨年まで約1,000千円強の黒字を計上していたのに今年度は100千円弱と大きく減少したことによる。しかし、パーティは飲食物も多く、実行委員会が参加し盛り上げ結果は良かったのではないと思われる。また、総務委員会は昨年度の名簿発行費の支部負担が予算差額の殆どであり、これは予算作成時に時間的な問題で欠落した結果である。

以上が単年度収支悪化の原因である。この決算関係書類については、2月4日大儀見、清水両監事の監査を受け、適正・正確との監査結果をいただいた。

特に質疑はなかった。

議題(2)1992年度事業計画及び収支予算 について

中上川総務委員から、資料に基づき事業計画の説明があり、さらに、収支予算について概略次の説明があった。

92年度予算については、例年のように12月初旬までに各委員長、フリートキャプテンから要求案を出していただき、それを基に1月の常任委員会において決算(見込)を基に計画されている。

収入面では、特記事項は会費収入関係で、今年度より実施される会費値上げの支部配分を加算し、レース参加料を7,500千円と考え、またクルーザーレーティングの計測料値上げと更新制度導入による増加分を見込み、スポンサー協賛金については今年度と同様に裕次郎メモリアル3,000千円、フリート対抗3,000千円計6,000千円を計画した。

支出面では、管理費等は見込みを基に策定し、事業関係ではクルーザーレーティング委員会関係の支出を年次更新対応のため増加させた。安全委員会についても安全フェスティバル開催予算の増額等を折り込み策定した。その他は、管理費同様実績見込みを参考にした。

その結果、92年度予算については、28,400千円と、収

支同額を計画することとなった。

なお、実際の運用については、常任委員会及び財務担当で充分内容を吟味し予算執行を公正かつ適正に行なう所存である。

特に質疑はなかった。

議題(3)1991年度関東支部基金報告 について

並木支部長から、本件については支部基金規約に基づき支部基金総会として審議願いたい旨の発言があり、中上川総務委員から資料に基づき、91年度収入は6,518千円、支出は11,100千円であった。支出面では補助金収支という形で11,000千円の支出があるが、これは、昨年のグアムレース事故関係の諸対策として本部からの要請により支出した費用である。との説明があり、並木支部長から、先ほどの代議員会では名目は補助金ではなく貸付金ではないかとの質問があり、この件は次回代議員会で検討、議することとなっている旨説明があった。

特に質疑はなかった。

議題(4)常任委員会及び代議員会報告 について

中上川総務委員から、本年度支部第1回代議員会で選出された常任委員及び監事の報告があった。

議題(5)その他

① 安岡副支部長から、2月22日開催予定のNORC代議員会に提出する支部選出理事候補者名の報告があった。

② グアムレース事故報告 について

尾島レース委員長から、概略次の報告があった。

事故対策委員会では、現在海上保安庁広報、「マリンマリン」「たか」関係者からのヒアリング内容等の情報を整理、データを確定、時系列とし分析中である。その結果を各委員会にバックし専門家による分析を求めている。という作業を進めている。

搜索に関しては、レース委員長として帆走指示書どおりに6日1200に搜索要請を行なったが、グアムにおいては5日午後及び6日午前の2回飛行機をチャーターしコミッティが搭乗し搜索を実施したがいずれも手ごかりはなかった。

次いで、次の発言等があった。

* 大儀見事故調委員長

* 基本的には起こり得ないことが起こった。一番のポイントは、対策である。妥協する事なく原因を明確にし結論を出したい。

* 清水事故調副委員長

ジャパン グアム ヨットレース事故調査対策委員会
は、本年1月1日に発足、ハード面の建造、設計2チームとソフト面の通信、安全、帆走の3チームで構成さ

れ各チームそれぞれが調査を行っており、運輸省始め各官庁からのオーダーも数多くきています。1月26日に緊急理事会を開催し、その際、NORCの諸事業は従来どおり進めるが、前提は事故の教訓を無にしないということである。また、GMDSS関連でイーパブは、406イーパブの推奨が決められた。

事故調の報告書は今月中にドラフト、3月中にまとめる、ことを目安として鋭意努力している。

なお、16日に「たか」合同慰霊祭があるので多数参加していただきたい。

- * 並木支部長から保険はどうなのか。との質問があり、尾島レース委員長から、レース説明会の際各艇に保険にはいるように推奨はしたが、レース委員会が契約するということは、艇長責任との兼ね合いがあり、この件は、NORCの方針として上部機関で決定すべき事だと思う。また、レース規則は、運営サイドの大きな

柱でこれがないとレース運営はできないと思う。ただ、原案が外国製なので日本にはなかなか受け入れにくいと思う。との発言があった。

- * 平田氏から「マリンマリン」はなぜ巡視船に移乗しなかったのか。との質問があり、尾島レース委員長から資料整理中であり最終的な検証ができてからお知らせしたい。との返答があった。

ほかに、発言提案等はなく、以上を報告を終了し、1525、第36回関東支部総会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。
1992年2月15日

議長 並木 茂士 (印)

署名人 小澤 美弘 (印)

署名人 内藤 恒夫 (印)

第14回代議員会議事録

社団法人 日本外洋帆走協会

1 日時

平成4年2月22日(土) 1520~1625

2 場所

東京都千代田区霞ヶ関3-2-3
国立教育会館601会議室

3 出席者

代議員137名中 出席74名(うち委任状49名)
(出席)

小黑 公一 前田 泰明 市村 俊明 尾島祐太郎
加藤 正敏 清田 博 中谷 林平 並木 茂士
初鹿野幸生 古川 保夫 朝河 清 大儀見 薫
菅野 道 周東 英卿 藤山 勝済 村本 信男
中馬 勇 矢吹 秀邦 安原 達郎 大田黒俊一
内藤 恒夫 畑田 晴彦 岩崎 正幸 二村 昭治
山本 正弘

(委任状)

山本高靖ほか48名

(代議員以外の出席)

石原慎太郎(会長、議長)

秋田博正(副会長) 清水栄太郎(専務理事) ほか

4 議題

- (1) ジャパン・グアムレース報告
- (2) 1991年度事業報告及び収支決算報告
- (3) 1992年度事業計画及び収支予算
- (4) 1992~1993年度担当の理事・監事の選任
- (5) 1991年度会費滞納者(除名予定者)について
- (6) その他

5 議事

1520、大儀見副会長の司会により開会、出席代議員は74名で本代議員会の成立を確認、石原会長が議長となり、議事録署名人に古川、初鹿野両代議員を指名し議事に入った。

議題(1)ジャパン・グアムレース報告 について

尾島レース委員長から、資料に基づき大要次の報告があった。

既に報道等からの情報によりご存知と思いますが、今回のグアムレースでは過去経験しなかった大事故が発生しました。NORCは、12月27日「マリンマリン」の落水から緊急体制に入り、1月1日から「MM事故調査対策委員会」を召集し、その後「たか」遭難のため、組織を「ジャパン・グアムヨットレース事故調査対策委員会」へ改組し、全力で対応してきましたが、何分にも事故の大きさが計り知れず、日々の新しい情報に振回され、各位への報告が遅れたことをお詫びいたします。事故調査対策委員会では、事故の問題点となる情報を収集し、これを一つ一つ検証し、正確な事実を基に対策を講じる方針で、第1次の報告書を3月末完成を目指して取り組んでいます。まだ、質問に答えられる状況にないことを了解していただきたい。

石原会長から、委員会には非常にご苦勞を願っているが、世間にオーシャンレースとは何かということを、認識してもらうためにも、我々でなければ作れない報告書を完成していただきたい。旨の発言があった。

議題(2)1991年度事業報告及び収支決算報告 について

久保常務理事から、資料に基づき、レース事業等の各事業及び各委員会の活動状況の大略報告があり、児玉財務委員長から、収支決算について資料に基づき概要次の報告があった。

91年度収支の概況は、主としてイベント収支の悪化に伴い、極めて厳しい数字となった。会費・登録収入、管理費等経常収支はほぼ予算どおりに推移したが、日本海レースの中止等による賛助会費の未実現、ダブルハンドレースの経費増、ジャパンカップの収入減、経費増等により大幅な収支のマイナスとなった。加えて、年末に発生したグアムレース遭難に対し一時に相当額の現金を用意する必要が生じ、関東支部基金から遭難対策基金の協力を仰ぐこととなった。

収入については、

- ・ 会費入会金は微増、賛助会費は予算段階での予測を大幅に下回った。
- ・ 登録料は伸びたが、会友艇登録の増加が主たる要因。
- ・ 会報収入の伸びは、財務委員会扱いでGPSの頒布をこの項目に計上したためである。
- ・ 特別事業の中にはIMS関連事業として、IMSレース協賛、同ソフト開発協力の事業があったがこれは実現しなかった。

支出については、

- ・ 管理費は予算どおりに推移した。
- ・ 会議は新事務所での会合を主体に考えていたが、会議費の削減には至らなかった。
- ・ 会報委員会費の大幅増加は前述のGPSの仕入れが計上されているためである。
- ・ 特別事業費、ダブルハンドレース経費は、通算事業費では596万円の黒字決算となったが、単年度対予算では800万円の支出超過となった。
- ・ 特別事業費、ジャパンカップは、対予算200万円の収入減、約400万円の支出超過となり、単収支でもマイナスとなった。

以上のとおり、今年度決算はビッグイベントの収支に大きく左右されてしまった。特にこれらの支出について、十分にコントロール出来なかったことについては、当委員会の責任を大きく痛感している。

今年度、遭難関係の支出も相当額予測されることから、この反省を十分に活かして予算執行に当たりたい。

各代議員から、大要次の質問があり、石原会長、大儀見副会長等から回答があった。

質問

- ・ 厳しい財務状況に関して、会員は何かすることがあるのではないかと、関心のある会員を巻き込んで皆でよい方法を考えようではないか。

- ・ 継続してきた本部レースが中止されたのはなぜかわしい。本部はどんな考えなのか。外洋レースをやらないでNORCは何をしようとしているのか。
- ・ NORCの下部組織が運営するような小さいレース、クルージング艇主体のレースが少ない。
- ・ 遭難等の特別（臨時）支出と経常的なものは、明確に分けないと十分な把握ができないのではないかと。
- ・ 特別事業の「赤字」は暦年が違うため実体とは違うのではないかと。
- ・ 関東支部基金からの資金手当について本部財務委員会が事後承諾の型で処理したのは問題である。事故対策関連の支出は91年度には基本的に発生していないのではないかと。

回答

- ・ 年末の資金繰りのため関東支部基金からの補助という型をとっているが当然お返しすべきもので92年度予算には組み込んであるので、3号議案の際よろしくご審議願いたい。事後承諾については、今後そのようなことがないようにしたい。
 - ・ 小笠原レース、八丈島レース等が中止になったのは、参加艇がいらない、あるいは1艇のみで、レースが成立しなかったためで執行部だけの問題ではない。会員から知恵を出してもらって島周りレースを楽しむための案をフリートから積み上げてほしい。
- 先ほどの理事会では、とりえずクルーザー委員会を設けて、シーマンシップを中心とした、レース委員会とは違う次元での委員会制度を発足させようということになった。
- ・ 小さいレース、クルージング艇主体のレースは、レース・スケジュールによればかなり計画されていると考えている。

議長から、91年度事業報告及び収支決算報告についての可否が諮られ、異議なく承認された。

議題(3)1992年度事業計画及び収支予算 について

久保常務理事から、資料に基づき、レース事業についてはジャパンカップ及び江ノ島・清水レースの日程変更、一般事業については総務委員会事業にJYRU問題推進作業の追加を含む各事業計画の説明があり、次いで、児玉財務委員長から、収支予算につき、資料を基に大要次の説明があった。

収入については、

- ・ 経常収支健全化のため会費値上げを行ない、対前年32%増を見込んだ。
- ・ 登録収入では、会友艇登録のさらなる拡大を見込んだ。
- ・ 事業費、頒布物品は若干の増加を見込んだ。

- ・ GPS等は頒布物品に組み込んだ。
- ・ 特別事業のジャパンカップ、グアムレースの収入は、91年度予算とほぼ同額とした。

支出については、

- ・ 人件費の伸びは6%とした。遭難対策に係わるバイト雇用経費も含んでいる。
- ・ 家屋費は新オフィスの水準で計上した。
- ・ 委員会支出額の基本は、各委員会の申告を基礎としたが、厳しい財務状態を踏まえ相当額抑制させていただいた。
- ・ 特別事業支出については、今年度は十分なコントロールを行なうこととしたい。

基金からの「補助金」の精算

- ・ 予備金の中から充当していく。現在の財務状況ではすべての精算が終わるまで複数年を要することになろう。

全般として、92年度の予算は収支改善を前提として組んでいる。従って各委員会、実行委員会にあっては、より一層の支出管理をお願いいたします。

遭難対策費について、並木関東支部長から、他支部基金への依頼も考慮してはどうか。また、各代議員から、本来保険で賄うべきである、保険契約の有無をレース出場条件にしてもよい。等の発言があった。

大儀見副会長から、JYRU問題については、NORCは外洋ヨットが専管分野であり、小艇及びオリンピックには関与していないことを前提とする。ということの総論は両者とも了解している。旨の説明があった。

議長から、92年度事業計画及び収支予算についての可否が諮られ、異議なく承認された。

議題(4)1992～1993年担当の理事・監事の選任 について

大儀見副会長から、新理事・監事候補者は別紙「理事・監事名簿(案)」のとおりである。なお、理事については、各支部からの報告を纏めたもので、関東支部については選挙によるものである。との説明があった。

議長から、本案の承認を得たい旨諮られ、異議なく承認された。

(別紙「理事・監事名簿」は、本議事録に添付することとした。)

議題(5)1991年度会費滞納者(除名予定者)について

大儀見副会長から、資料の名簿のうち昨日までに会費を納入された5名については名簿から削除していただきたい、総数353名である旨の説明があり、昨年同様暫く猶予期間をおいてから手続きを取ることにしたい旨の説明があり、異議なく承認された。

他に、質疑意見等はなく以上で審議を終了し、1625、第14回代議員会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成4年2月22日

議長 石原慎太郎 (印)

署名人 古川 保夫 (印)

署名人 初鹿野幸生 (印)

理事・監事 名 簿

(1992年～1993年 担当)

理 事

氏 名	新重	住 所
朝河 清	重任	東京都港区白金3-21-7
石井 正行	"	横浜市金沢区片吹15-11
石原慎太郎	"	東京都大田区田園調布1-44-2
大儀見 薫	"	神奈川県中郡二宮町山西45
久保 和男	"	小平市上水本町2-6-2
児玉 萬平	"	東京都目黒区中目黒1-8-12
清水栄太郎	"	東京都文京区音羽2-1-20
鈴木 康之	"	横須賀市ハイランド1-40-10
内藤 恒夫	新任	東京都墨田区両国3-2-4-601
並木 茂士	重任	横浜市神奈川区白楽39
林 賢之輔	"	横須賀市芦名2-25-1
古川 保夫	"	東京都品川区大井5-16-12
宮坂 敬三	"	横浜市神奈川区三枚町563-1 サニーハイツ新横浜201
安岡 信一	"	川崎市幸区南幸町1-33
山崎 達光	"	東京都文京区小日向2-21-6
柴田 邦敏	"	清水市八坂北1-2-20
岩崎 正幸	新任	浜松市広沢3-22-9
小林 義彦	重任	半田市亀崎町10-1
川端 治夫	"	久居市東鷹跡町43-3
長谷川富延	"	名古屋市中区栄1-29-23
都築 勝利	"	高浜市小池町6-5-17
三井 祥功	"	京都市南区東九条南烏丸町35-6-1-114
秋山 福夫	"	京都市山科区川田御出町33
秋田 博正	"	芦屋市山手町31-26
平岡 英信	"	大阪市天王寺区北山町8-11
松木 哲	"	芦屋市潮見町3-4-4
山村 彰	新任	西宮市浜松原町2-21
岩田 行史	重任	広島市西区已斐中2-3-10
川村 安正	新任	久留米市日の出町44-3
東江 正喜	重任	浦添市沢岬955-2

監 事

横山 晃	重任	横浜市磯子区岡村4-18-19
渡辺 修治	重任	神奈川県三浦郡葉山町堀内588

第36回総会議事録

社団法人日本外洋帆走協会

1 日時

平成4年2月22日(土) 1655~1725

2 場所

東京都千代田区霞ヶ関3-2-3
国立教育会館 601会議室

3 出席者

929名 (出席57名 委任状872名)

4 議題

- (1) ジャパン・グアムレース報告
- (2) 1991年度事業報告及び収支決算報告
- (3) 1992年度事業計画及び収支予算報告
- (4) 新理事・監事及び主要役員の選任報告
- (5) その他報告

5 議事

1655, 清水専務理事の司会により開会, 久保常務理事から出席会員は929名で特別会員及び正会員計4,531名の5分の1以上である旨の報告があり定足数を確認, 石原会長が議長となり, 議事録署名人に浅野英武, 初鹿野幸生両氏を指名し, 議事に入った。

始めに石原会長から, 本年はNORCにとっては種々な問題が出てきた。時間も限られているようだが, 忌憚のない意見をいただきたい。との挨拶があった。

議題(1)ジャパン・グアムレース報告 について

尾島レース委員長から, 資料に基づき大要次の報告があった。

既に報道等からの情報によりご存知と思いますが, 今回のグアムレースでは過去経験しなかった大事故が発生しました。NORCは, 12月27日「マリンマリン」の落水から緊急体制に入り, 1月1日から「MM事故調査対策委員会」を召集し, その後「たか」遭難のため, 組織を「ジャパン・グアムヨットレース事故調査対策委員会」へ改組し, 全力で対応してきましたが, 何分にも事故の大きさが計りしれず, 日々の新しい情報に振り回され, 各位への報告が遅れたことをお詫びいたします。事故調査対策委員会では, 事故の問題点となる情報を収集し, これを一つ一つ検証し, 正確な事実を基に対策を講じる方針で, 第1次の報告書を3月末完成を目指して取り組んでいます。まだ, 質問に答えられる状況にないことを了解していただきたい。

清水専務理事から, 昨日「たか」佐野氏と面談した結果, 事故対策委員会で考えていた種々の問題点がある程度確定できた。これらの情報は報告書に収録されることとなる。佐野氏の回復は順調である。との報告があった。

議題(2)1991年度事業報告及び収支決算報告

議題(3)1992年度事業計画及び収支予算報告 について

清水専務理事から, 時間の都合があり, 事業報告及び事業計画については, お手元の総会資料を読んでいただくこととして説明は省略したい, と説明があり, 91年度収支決算及び92年度収支予算について, 児玉財務委員長から資料に基づき大要次の報告があった。

91年度収支の概況は, 主としてイベント収支の悪化にともない, 極めて厳しい数字となった。会費・登録収入, 管理費等経常収支はほぼ予算どおりに推移したが日本海レースの中止等による賛助会費の未実現, ダブルハンドレースの経費増, ジャパンカップの収入減, 経費増等により大幅な収支のマイナスとなった。加えて年末に発生したグアムレース遭難に対し一時に相当額の現金を用意する必要が生じ, 関東支部基金から遭難対策基金の協力を仰ぐこととなった。

収入については,

- ・会費入会金は微増, 賛助会費は実現しなかった。
- ・登録料は伸びたが, 会友艇登録の増加が主たる要因
- ・会報収入の伸びは, GPSの頒布を行なったため。
- ・特別事業の中にはIMS関連事業があったが未実現。

支出については,

- ・管理費は予算どおりに推移した。
- ・会議は新事務所での会合を主体に考えていたが, 会議費の削減には至らなかった。
- ・会報委員会費の大幅増加は前述GPSの仕入れが計上されているため。
- ・特別事業費, ダブルハンドレース経費は, 通算事業費では596万円の黒字決算となったが, 単年度対予算では800万円の支出超過になった。
- ・特別事業費, ジャパンカップは, 対予算200万円の収入減, 約400万円の支出超過となり, 単収支でもマイナスとなった。

以上のとおり, 今年度決算はビッグイベントの収支に大きく左右されてしまった。特にこれらの支出について, 十分にコントロール出来なかったことでは当委員会の責任を大きく痛感している。

今年度, 遭難関係の支出も相当額予測されることから, この反省を十分に活かして予算執行に当たりたい。

次いで, 横山監事から, 2月4日, 渡辺監事とともに監査を行なったが会計については適法かつ正確であり, 業務については法令定款に違反する事実はなかった。旨の監査報告があった。

92年度収支予算は,

収入については,

- ・経常収支健全化のため会費値上げを行ない、対前年32%増を見込んだ。
- ・登録収入では、会友艇登録のさらなる拡大を見込んだ。
- ・事業費、頒布物品は若干の増加を見込んだ。
- ・GPS等は頒布物品に組み込んだ。
- ・特別事業のジャパンカップ、グアムレースの収入は、91年度予算とほぼ同額とした。

支出については、

- ・人件費の伸びは6%とした。遭難対策に係わるバイト雇用経費も含んでいる。
- ・家屋費は新オフィスの水準で計上した。
- ・委員会支出額の基本は、各委員会の申告を基礎としたが、厳しい財務状態を踏まえ相当額抑制させていただいた。
- ・特別事業支出については、今年度は十分なコントロールを行なうこととした。

基金の精算については、

- ・予備金の中から充当していく。現在の財務状況ではすべての精算が終わるまで複数年費やすことになる。

全般として、92年度の予算は収支改善を前提として組んでいます。従って各委員会、実行委員会にあっては、より一層の支出管理をお願いいたします。

議題4新理事・監事及び主要役員の選任報告 について

清水専務理事から、先ほどの第14回代議員会において理事・監事が選任され、第120回理事会において役職が決定された。

新理事は、関東支部内藤氏、駿河湾支部岩崎氏、内海支部山村氏、玄海支部川村氏で今岡氏、峰田氏、山田氏、末松氏は退任された。

会長は石原理事、副会長は大儀見理事、と東海支部長小林理事、専務理事は清水理事、でそのほかの理事・監事には変更はなく、資料のとおりである。

委員長では、朝河理事が兼職していた海事思想普及委員長に、内藤氏が就任した。そのほか変更はなく資料のとおりである。と報告があり、出席新理事の紹介があった。

議題5その他

* 清水専務理事から、先ほどの理事会で横山監事からのご提言により、シーマンシップを啓蒙するため海事思想普及委員会のなかにクルージング委員会を置き検討実施に当たることとなった。旨報告があった。

* 松井常磐支部長、関東支部小黑代議員から、マリナー・泊地の確保に苦勞している、NORCのバックアップをお願いしたい。との要望があり、会長から、行政改革審議会で泊地問題をまとめて意見具申をしてはどうであろうか。との発言があった。

他に質疑意見等なく、以上で議事を終了し、1725、第36回総会を終了した。

上記議事録に誤りのないことを証明し、記名押印する。

平成4年2月22日

議長 石原慎太郎 (印)

署名人 浅野 英武 (印)

署名人 初鹿野幸生 (印)

「〈マリンマリン〉〈タカ〉海難事故に関する第1次報告書」頒布のお知らせ

JGYR92事故調査対策委員会

事故発生直後に、NORCは上記の委員会を設置して、事故原因の究明と再発防止のために総力をあげてきました。このたび、ようやく第1次の報告書の大半を上梓、5月中旬には印刷と製本が完了、頒布できる見込みが立ちましたのでお知らせします。

報告書はA4判、頁数は予算の関係で収録図版の処理が遅れているために、まだ確定できていませんが、130頁前後になるかと思われます。

報告書の頒布方法は、4月25日の緊急理事会決定に基づき、部数2,000部を製作。ご希望の会員へは無料で頒布。ただし送料(報告書の重量が不明のため現在未定)は自己負担。非会員へは、一冊につき金5,000円の事故調査対策協力金をお願いすることになりました。

報告書の内容は以下の通りです。

〔報告書の構成 JGYR92事故調査対策委員会〕

序文 真の追悼と反省のために 石原慎太郎
ヨットレースの基本原則
JGYRの歴史
各回参加状況の一覧

JGYR92参加資格

JGYR気象海象の調査と分析

JGYR92参加艇アンケート調査

JGYR92日時経過一覧表

〈マリンマリン〉と〈タカ〉のプロフィール

〈マリンマリン〉キール脱落事故原因調査報告

〈タカ〉転覆事故原因調査報告

〈マリンマリン〉〈タカ〉海難事故に関する事故防止

検討事項

総括

大見儀薫

データの的に主要な箇所は、今回だけでなく過去全回のレースの気象海象の調査を民間会社に委託、比較を試みた「JGYR気象海象の調査と分析」、それに千件を超える情報を収集、整理を終え、確認された事実関係をビジュアルな時系列に並べた「JGYR92日時経過一覧表」、また技術会員会が全力投球、コンピュータグラフィックを駆使した、前例が僅少な貴重なデータも多い「〈マリンマリン〉キール脱落事故原因調査報告」と「〈タカ〉転覆事故原因調査報告」などです。ぜひ一読下さい。 以上

1 タカQカップ奮戦記

浦安 未央 スkipパー 林 明夫

何の因果か、ヨット病に憑かれてはや20数年、順風吹けば天国、時化たら地獄のヨット、また陸から見ているのと乗るのでは、大違いのヨットではありますが、懲りずに今年も又賞品に魅せられて、エントリーしました。

2

我々にとって、もう一つのタカQカップの魅力は、憧れの相模湾でレースが出来るという事と、レース運営自体が余り熱くならないよう、程よい主旨が感じられるからです。

又、参加艇の多いレースでもありまして、「つぼのレースで ヨー」と、昔のヨット仲間共やメンバーと、太ボラを吹きながら、旨い酒でも飲めたらと考えた次第であります。

3

去年はCR総合3位という成績で、皆、喜んで旨い酒が飲めまして、さて今年も柳の下のどじょうをもう一匹と張り切って参加しました。

結果は今年は柳の下にドジョウがおりませんでした。メンバー助っ人共々に「もし……たら」と我々の腕は棚に上げまして、風のせい、艇のせい、はたまたセールのせい、もひとつお前の顔のせいなどと、せいせいづくしで又ひとつ楽しい酒の肴になりました。

「…タラ・タラ・タラ」の今年のレースでしたが、同型艇 if との賭に勝ちまして、皆で「マァーイッカー」で終わりました。

“長坂さん失礼”



ミドルボート沿革

クラブ事務総長 青山恒昌

ミドルボート

この語言については、どなたが最初に言い出したかは定かではないが、過去にはビッグボートが存在し、スモールボートも現在まで活動している。その間に位置するのが多分ミドルボートであろう。

昭和61年3月、青波行の原均氏が中心となり、関西のオーナー有志により、全日本のタイトルで第1回の選手権が開催された。関東からも多数の遠征艇があり、ハーフトナー、スリクオーターの連中は“春は関西で、秋は熱海のジャパンカップで戦いましょう”が合い言葉になり、以後昭和63年の第3回大会まで関西で開催されたそれなりの位置を占めたが、ミドルであるためか、IORの大型化がそうさせたかは解らないが、昭和から平成への年号の移り変りと共に、西での開催は中断し、以後関東で行われるようになった。

関東ミドルボートオーナーズクラブ

ジャパンカップ、関東フリート対抗、鳥羽レース、関東支部主催の島廻りレース等で活躍された、12名のIORボートオーナー有志によって、平成元年1月に設立されたクラブである。

設立主旨

ミドルボートの発展を図る。

選手権をゴールデンウィークに開催する。

選手権で欠損が生じた時は会員が均等に負担する。

会員は、口を出し、手を出し、お金も出せること。

会員相互の親睦をはかる。

役員は輪番制とする。

入会金3万円、年会費1万円とする。

このようなコンセプトのもとで出帆しました。

平松栄一氏（インデペンデンスVオーナー）に名誉会長をお願いし、全ての案件は合議制で決定することにした発足時より会員数は増え、平成4年5月現在で35名を数えるに至っている。

ミドルボート選手権

インショア・レース5本からなるシリーズ・レースではあるが、基本的にはあくまでも“選手権ゴッコ”であり参加するプレーヤーの意見を尊重し、レース企画や運営面に反映すること。

レースは心技体を十二分に使って競い合い、シーマンらしくルールには厳しく、過激派から、それなり派までが海上ではレースを楽しみ、陸上では日常の世事から離れつめたビールを片手に心ゆくまで、海や人生を語る。レース委員長は海でのパーティーのホストとして、実行委員長は陸でのホストとして、会員や参加するプレーヤーに十分な満足感を与え、喜んで頂けるようなホスピタリティを発揮すること。

これが私達の企画したミドルボート選手権なのです。

実績

第1回、平成元年、大会名称を関東ミドルボート選手権とし、5月3、4、5の3日間で4レースを行った。参加艇数IOR-24、CR-3艇、参加人員648人
優勝艇IOR、アフロデिता菅野道

CR、キャプテンカリブ 桜田隆

アフロデिताチームは小松一憲氏を擁し全レースを制し3/4トンワールドに向けての最後のチューニングレースとなり、世界選手権では日本初の4位と健闘した。

第2回、平成2年、今回より株式会社タカキユーのご協賛を得て、冠大会となり、タカキユーカップ'90ミドルボート選手権とした。風に恵れず、3レースしか消化出来ず、以後大会役員の日頃の言動、行動に反省を与える機会となった。

参加艇数IOR-30、CR-24、参加人員1296人
優勝艇IOR、アフロデिताジュニア菅野隆

CR、UFO川島正通

UFOチームのカジをNORC・CR委員長の尾田英明氏がひき、クルーザレーティングの普及に貢献した。

新しい企画として、“ヨット業界に従事している人達で構成されたチーム”には総合賞を、“趣味としている社会人や学生で構成されたチーム”には総合賞とアマチュア賞を、IORで進水後6年を経過した艇にはシニアボート賞を贈ることにした。

第3回、平成3年、今年も株式会社タカキユーのご協賛を得て、タカキユーカップ'91ミドルボート選手権とした。

日本のタイトルにふさわしく、14の遠来艇もあり、4月26、27、5月3、4の4日間好天に恵れ、5レースを行い、念願であったベスト4選択のデイスカード・レースが成立した。

参加艇数IOR-34、CR-24、参加人員1856
優勝艇IOR、シルフィード蒲谷和行

CR、キャプテンカリブ 桜田隆

IORではシルフィード、リップル、再見が、CRではカリブとメルルーサが最後まで争い、相対的にハイレベルな戦いとなった。

今年はホップ、ステップのラストジャンプの年であった当クラブの目的である、レースアフタがウエルカム、中日、表彰式と3回も催され、充実した雰囲気のもとでひえたビールを片手に海を語り、人生を語る、ことが実現した。

第4回、平成4年、タカキユーカップ'92日本ミドルボート選手権は4月26、29、5月2、3、4の5日間、好

天、好風に恵れ5レースを行った。

ジャパンカップとのダブル開催となり、運営艇、使用海面などを考慮して、5月2日をショート・デイスタンスあしか島レース(25マイル)とし、4月29日を新たな企画としてオーナーヘルムズ・レースを行った。

これまで最多の参加艇数をみた。シリーズ・レースでは62艇、オープン・レースに7艇、5日間で320艇とクルー延べ2500人の参加である。相模湾最大のレースに育ちつつある。

参加艇数CR-33、IOR-29、遠来艇-19

優勝艇CR、テイクワン武部芳宣

IOR、サンタグリーン笠原文和

テイクワンは東海支部(碧南YC)、サンタグリーンは近北支部(志賀YC)、IORベストアマ、JUST6堀田和正は東海支部(幡豆フリート)、全て遠征艇で、これで名実共に日本ミドルボート選手権となった。

三浦市民宿センターのご協力により、松輪地区の民宿を選手村としました。遠来艇の皆様にご利用して頂きましたがいかがでしたでしょうか。

将来への展望

CR艇がこれから増加する傾向にあるのは自明の理であるが、更に正確で公平なレーティングの算出や、IMSタイプの艇の位置付け、IOR、CRの古い艇に対する対策などなど、十二分に考慮した、新しい企画のもとでのシリーズ・レースを再構築しなければならない時代に来ているような気がする。



告知板

NORC、オリジナルポロシャツを頒布します。

素材は白のオールコットン

NORCのししゅう入り

サイズはLL、Lの2種

価格は四千元

送料は着払い

担当はNORC事務局小山まで

'92初島卯月レース総合成績

C1	S.No	艇名	TYPE		着順	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	クラス 順位	総合 順位
I M S	4444	ROCINANTE	BNT53F5	549.5	2	6'55"46	24,946.0		3
	188	CONTESSAX	FRE48	557.9	4	7'26"00	26,356.8		6
	4737	ZERO III	ELIOTT12	571.1	5	7'32"24	26,107.2		5
	1579	SHOGAKUBO S	MUIR41	574.4	3	7'13"01	24,785.8		2
	4722	DREAMPIC	FAR44	580.7	1	6'54"42	23,384.4		1
	4700	BE-ONE	TAYLOR43	592.7	6	7'34"00	25,166.4		4
	4600	YUKIKAZE		596.4	11	8'03"48	26,776.8		7
	4111	CORVATSH III		608.7	15	9'10"33	30,191.4		11
	1465	MAUPITI		623.5	18	9'21"50	30,158.0		10
	4636	SEAHAWK		642.1	17	9'17"57	29,032.2		9
	4635	ISIS II		647.6	16	9'13"16	28,487.2		8
	141	SHIOKAZE VI		652.4	28	9'46"20	30,240.8		12
C R	3768	FRENCH KISS		9.7	22	9'30"44	8,420	7	
	1115	STAYER		8.75	32	10'00"43	9,115	9	
	4567	SIREN		8.65	13	9'05"27	5,703	1	
	2662	ARIADNE 7		3.3	27	9'45"39	7,635	6	
	4507	TORNADO III		7.65	30	9'54"46	7,270	3	
	1733	U.F.O		7.1	29	9'48"49	6,049	2	
	3954	YUYAKE KOYAKE		7.1	33	10'03"44	8,755.2	8	
	2967	HOLIDAY		7.1	38	10'47"05	9,545	10	
	4524	JOJO		6.7	35	10'24"01	7,489	4	
	4474	DALTON		6.65	37	10'27"28	7,600	5	

I O R

C1	S.No	艇名	TYPE		着順	所要時間 時 分 秒	修正時間 秒	クラス 順位	総合 順位
II	355	SLEEPER	N/M42	32.81	8	7'58"11	22,450.5	4	4
	4500	KARASU	TK40	30.70	9	7'59"52	21,883.1	2	2
	3606	BOY	FAR40	30.65	10	8'03"02	22,056.5	3	3
	4033	ARECAN BAY	FAR40	30.52	7	7'41"34	20,724.9	1	1
III	667	KAYSEVEN	ODA45	28.32	34	10'07"29	28,698.4	2	16
	3295	SOUMIY	Y38R	28.29	25	9'36"59	26,857.1	1	14
IV	3809	SHARAKU	YR34	25.23	24	9'33"17	25,380.5	6	12
	3530	SUMMER KNOWS	TK34	24.74	23	9'31"52	25,073.3	5	11
	3002	SYLPHIDE	FAR34	24.59	12	9'02"17	23,228.9	2	6
	3839	KAIENTAI	HOL33	24.58	21	9'30"01	24,888.3	4	9
	4379	SAIKEN II	YOK31	23.28	14	9'09"48	23,046.0	1	5
	1088	INDEPENDENCE	YOK30SR	23.09	20	9'29"55	24,156.6	3	8
	3414	ASIAN STORM	YOK32SR	22.91	31	9'57"36	25,725.1	3	13
V	2677	GREAT PEOPLE	YOK31N	22.68	39	10'53"18	28,947.4	4	17
	1659	HASTAMANA	TK30	22.32	36	10'26"49	27,167.4	3	15
	3510	TRACER	TK31F	22.30	19	9'29"32	23,717.6	1	7
	4218	NAPOLEON	YOK31N	22.76	26	9'44"58	24,889.3	2	10

関東の島まわりレース開幕を告げる、恒例の初島卯月レース。

今年は4月4日午前10時に、小網代沖をスタート。東北東の風に乗って、参加艇は一路初島を目指した。

結果、ジャパンカップでも活躍した“ドリームピック”がファーストホーム／IMSクラス優勝を果たした。今後のレース展開が注目されるところである。

今月の表紙: 20年間誰れも破れなかった
沖繩～東京レースのコースレコードを今
まさに破らんとゴールを目指す“ラッキー
レディV” (写真/市川和彦)

OFFSHORE 第203号 平成4年5月15日発行
毎月1回15日発行
昭和52年7月21日 第三種郵便物認可
1部定価300円(郵送料46円)

発行 社団法人 日本外洋帆走協会
東京都港区虎ノ門1-11-2(第2船舶振興ビル5階)
電話・東京03(3504)1911~3 〒105
郵便振替番号2-21787
印刷 明宏印刷株式会社

HARKEN

JIB REEFING & FURLING FEATURES

全世界で最も信頼されている、理想的なハーケン・ジブリーフing & ファーリングシステムの紹介です。

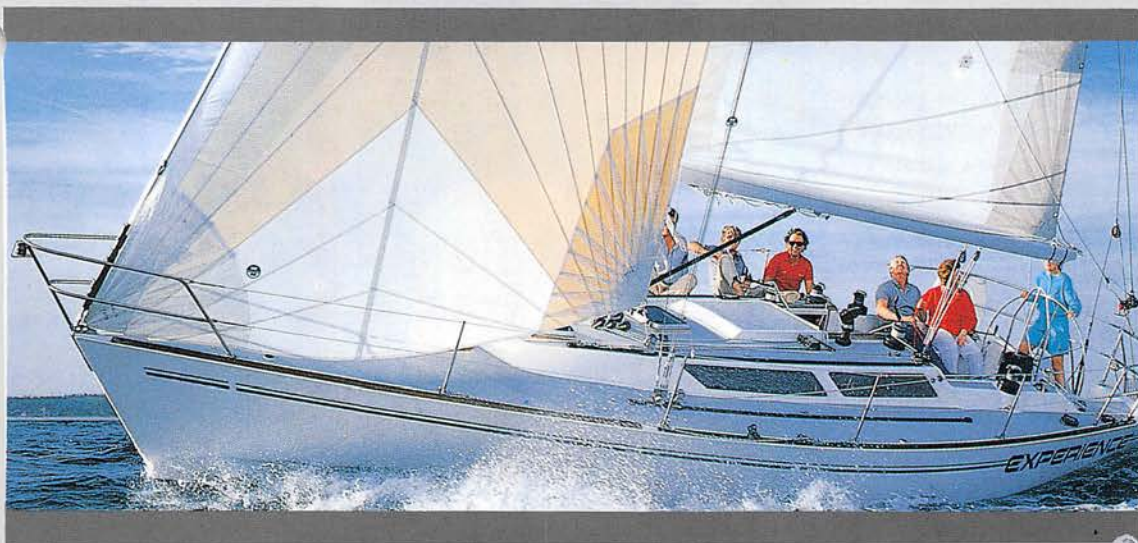
ジブリーフing & ファーリングはコクピットから、できるだけ簡単にセイルを縮められるような効果的なシステムが必要です。

まして、スムーズな回転や、特別な強度などの要求にも完璧に応じなければいけません。通常のリーフingシステムでは、縮帆(リーフing)することにセイルが深くなり過ぎ、帆走性能などに悪影響をおよぼしていますが、ハーケン・ジブリーフing &

ファーリングシステムは、これらのすべての要求を解決しています。

通常はリーフing時、スプリットドラムと上部ピンが回転するのみでヘッドステイ中心部が強く巻き取れませんが、ハーケンはヘッドステイ(フォイル)中心部がドラムとピンよりも早く回転し始め、ドラムとピンが遅れて回転するため美しく均一に巻け、ファーリングしてもセイルが深くなる心配はいりません。

世界のあらゆる海域で使用され、1年間に20,000本以上製造される実績がすべてを物語っているのです。



1992 ジブファーラー価格表

UNIT-0 (20~29フィートの小型艇) S ピン~ピン 9.5mまで	○モデル ¥210,000
UNIT-1 (28~37フィートの小型艇) S ピン~ピン 11.8mまで	○モデル ¥308,000
UNIT-1.5 (35~38フィートの小型艇) ピン~ピン 14.2mまで ※35~38フィートの小型艇でヘッドステイが8mmの艇	○モデル ¥373,000
UNIT-2 (36~46フィートの中型艇) S ピン~ピン 16.2mまで	○モデル ¥472,000
UNIT-2.5 (36~46フィートの中型艇) ピン~ピン 18.4mまで ※40~50フィートの中型艇でロッドステイ-22の艇	○モデル ¥588,000
UNIT-3 (44~70フィートの大型艇) ピン~ピン 20.0mまで	○モデル ¥787,500

- 艇の長さだけがシステムを選ぶ基準ではありませんから注意してください。ヘッドステイの直径・全長によってユニットNoが変わります。
- ワイヤーのみスウェージ加工・ファーラー取付工事・レーシングドラム仕様は別途料金です。

レーシングドラム仕様

ハーケンジブファーラーの鋭いめがねたエアロダイナミックフォイルは、レースでも大きな威力を発揮します。クルージングモードからレーシングモードへの変更は、巻き取りドラムの6本のビスの脱着だけで完璧。作業は簡単、所要時間はわずか10分です。

ドラム部はビスだけで簡単に着脱できます。ドラム部をはずせば、今までどうし交換が可能。レーシングセイルも無駄になりません。



HARKEN

ハーケンジャパン株式会社 〒662 兵庫県西宮市西宮浜2-21-9
TEL.0798-22-2520/FAX.0798-33-2100

ハーケンジブリーフing & ファーリングシステムはフット・スターンの特許のもと製造されています。

'92 JAPAN MIDDLE BOAT CHAMPIONSHIP taka-Q Cup

第4回タカキューカップ'92日本ミドルボート選手権は、史上最多の参加艇をみた。シリーズレースに62艇、オープンレースに7艇の計69艇、延べ5日間で320艇とクルー延べ2500人の参加である。相模湾最大のレースに育ちつつある。

今回は従来インショアに「アシカ島」回航25マイル・ショートディスタンスを加えた。又、第3レースにはオーナーヘルムスの義務付けも試みた。これら全てが大成功裡に終わり、表彰式への熱気へと移った。総合優勝はIOR・サンタグリーン、CR・TAKE-1、ベストアマ・JUST6。ことごとくカップは東海、福井、名古屋等の遠来艇が手にしていった。

この快挙は本シリーズがあたかも全国区になる予兆でもある。

photo by Kei Yajima

レース報告

レース委員長 尾田英明

ゴールデンウィークの限られた日程と過密なスケジュールに加え、相模湾の中でもレースコースが可能な小さなエリアを利用して、'92日本ミドルボート選手権、'92JAPAN-CUP、J-24レディス全日本のビッグイベントが同時開催され、種々の問題について各実行委員会が応じてくれ何のトラブルもなくスムーズなレース運営が出来た事をJAPAN-CUP、J-24の実行委員会の方々にこの書面を拝借して深く感謝致します。

以上の問題が解決したことで「良いレースコースを設定し参加艇の皆さんに楽しんで戴く」というホスト役に没頭することが出来ました。内容はともかく全5レースを消化し、シリーズレースが無事故で成立できたことは昨今のヨットに対する汚名挽回となります。

年々増加する参加艇の中でCRクラスのスピードと操船技術の向上には目を見張るものがあります。IORクラスから移行したわけだけでなく参加艇数も一挙に33艇まで増加しました。ルールに縛られないクルーザーレーティング艇ともいべき軍団。今後も益々発展するディビジョンといえますが、もっと楽しくするためにレーティングによるクラス分けも考えなければなりません。IORクラスに於いても参加艇を増やす事と同時にハイテック艇のトップ集団にシニアボートが絡み合えるようなローカルエイジコレクトやクラス分けを採用しIORクラスの盛り上がり期待したい。いずれにしても公平で楽しいレースをコーディネートする事が当クラブの発展につながり、日本人サイズの中ボートの普及と発展になると信じています。

今回のレース運営に協力して戴いたスタッフの皆様ありがとうございました。





充実の我がサントチーム

サントグリーン 笠原文和

昨年度の鳥羽パールレース IOR 総合優勝、今回の日本ミドルボート選手権 IOR 優勝と素晴らしく充実した日々が続いている。しかし今年に入ってから1月から4月の全6戦のNORC近北支部ポイントレースではあまり良い成績ではなかった。

艇のスピードが上がらない。IORレーティング21.96ではこんなものかとも思った。小さなボリュームのハルながらセールエリアが小さいため、結局中風以上の艇性能と諦めたりした。しかしわがクルーはどうしても今のスピードに我慢ならなかったらしい。夜も寝付きが悪いくらい悩んでいるという。皆で議論し、他艇と走り比べを繰り返して行った。設計者の高井さんも来てくれた。セールメーカーのアドバイスも受けた。

3月まではどん底の艇スピードのサントチームだった。結局いろいろなチューニングを施し、スピードアップが感じられ、レーティングも再計測を受けた。21.97と最小の数値に押さえられ、上位を狙えられる状態になったようだ。

しかし、こんな素晴らしい結果になるとは少なくともオーナーの私は本当に予想しなかったのだ。どん底の時、艇を代える事も考えたけれどこれらのチューニングは我がチームに大きな知識と経験を与えてくれたと同時に、サントチームに次への挑戦への自信をもたらしただけだと思う。そしてセーリングって本当に奥深くておもしろい！



CR 総合優勝

TAKE-1 武部芳宣

今年2月全員で今年のレース出艇計画を検討している時、昨年ジャンカップ惨敗の悔しい思いは残るものの、日本ミドルボート選手権に参加させて頂こうと決めました。その最大の理由はレース日が良い、多数の同型艇で戦える、運営が好評である等でした。

以来クルー選抜、練習を重ねながら、是非とも3位入賞を目指し緊張しながらも26日を迎えました。

さて、第1レースは天候に恵まれそのうえ幸運にもファーストホーム。しかも続けて第2レースを実施すること。最初の勢いをそのまま結果に繋げることができました。第3レースはオーナーヘルムス。捨てレースにできない。小生は過去レースでティラーを握ったことがない。お察しの通り確実に実力33位なのに5位の結果は全てクルーのお陰。特に石川氏が小生に付きっきりで、押せ、引け等の大声でフォローアップ。そのため終了後は喉がカラカラだったようだ。誠に腕の悪さに呆れるばかり。ゴメンナサイ！しかし、つきはまだ残っていたようで第4・5レースも勝つことができました。

最後に、三河湾でもこんな凄いレースが開催されれば、三河湾の仲間も感激するだろうなあと思いながら、スマートでオーナーヘルムス等心温まる運営をされたスポンサー初め関係各位に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。





IORベストアマ

ジャスト6 堀田和正

ジャストは大阪湾コルム杯、オレンジカップ、ミドルボート、ジャパンカップ等遠征しましたが、私どもの船にぴったりの素晴らしいレースは昨年参加させて戴いたミドルボート選手権だと思い、今年の目標はこれに狙いを定めてまいりました。

5レースのうち一番印象に残ったレースはやはり第3レースのオーナーヘルムスレースです。ジャスト2世以来十数年、レースで舵を握らせてもらえなかった私がヘルムを取ってなんと上マークをトップで回航し、SYLPHIDESが後ろにいるのですから驚きです。最後には4着になったのですが、もっともクルーの良きアドバイスにしたがっただけのことですが、素晴らしい結果になりました。大きく落としたレースがなかったのが総合3位およびベストアマとなれた勝因だと思います。素晴らしいレース運営の日本ミドルボート選手権。来年は優勝を狙います。

CRベストアマ

メルルーサ 杉田泰一

今年のミドルボートは新艇の参加が多く、とても上位は狙えないと観念して練習なしのぶっつけ本番で臨んだが、幕を開けてみると微風の第1レースで4位、続く第2レースで6位。第3レースでは14位とつまづいたが、ここまで総合6位でなんとかかなりそうな気配になってきた。

1.5倍のアシカ島レースでは前半の微風で苦労したが、アシカ島回航後三浦海岸寄りのコースが当たり、3位に食い込むことができた。第5レースも無難に走り、この時点で総合3位に浮上した。最終レースで頑張る14位を捨てレースにと目論んだが、結局はノーレースとなり終わってみれば昨年に引き続きベストアマ賞を戴けることになりました。(何だか癖になりそう) 今年のコースはソーセージで、運営側が風の触れに良く対応してくれて大変楽しいレースを満喫することができ、毎度のことながら感謝の念で一杯です。

ミドルの繁栄と、来年のレースに期待します。



裏方記 実行委員長 高橋伸博

第4回日本ミドルボート選手権も5月4日に無事終了でき、遠来艇に花を持っていただいたことは、来年の出艇数にも影響すると共に相模湾を本拠地とするわが艇も含めた各チームの来年へのやる気と意欲が増したものと確信し、大成功に終わったなと思っております。

実行委員長としては予定の5レースできた事とレースが全て好天に恵まれた事が一番嬉しいことです。

また、ショートディスタンスは今回が初めてのコースで行いましたが各艇より「面白かった」と好評を頂き、実行を決断して良かったと思っております。

パーティについては取り仕切りを全て引き受けてくれた天野さんを筆頭にハーフタイム、千葉大、ガンダリーナの方々、その他各艇の方のご協力により無事出来たことを紙面をお借りして御礼申し上げます。

実行委員長とパーティ委員長の一人二役を仰せ付かった時は仕事そっちのけで自分がやらなくてはと意気込んでおりましたが、各スタッフの協力により結局は全部人任せで無事全て(多少不満もあると思いますが)無難に終わることができましたことを御礼申し上げ、裏方記とさせて頂きます。

大会御礼 大会会長 菅野 道

第4回タカキューカップ'92日本ミドルボート選手権も無事終わることができました。年々参加艇も増え、今大会では過去最多となり、我々主催者と致しましては感無量でございます。

これも毎回スポンサーで戴いております(株)タカキューの御協賛の賜物と感謝致しております。また、地元三浦市には今回も多大なご支援を戴き心より御申し上げます。選手村の松輪の民宿の皆様方の暖かいおもてなし有難うございました。ご協力戴きました各社の皆様に深く御礼申し上げます。

今回は数多くの遠来艇が参加されました。さぞご苦勞の多かったことと存じます。おかげさまで本大会は名実共に日本選手権レースとなることができました。今後さらに充実した大会にしたいと思いますので、お仲間をお誘いの上来年もまた是非御参加下さい。

本大会はヨットマンのヨットマンによるヨットマンのためのものです。今回も幾多の不行き届きやご不満があったかと存じますが、それらを今後の糧と致したいと思いますので忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

大会構成メンバー

クラブ名誉会長	平松栄一
大会会長	菅野 道
事務総長	青山恒昌
事務局長	能條秀夫
実行委員長	高橋伸博
帆走委員長	二宮宏光
レース委員長	尾田英明
プロテスト委員長	大谷正彦
広報委員長	井上一典

熱田二士行	朝河 清	藤沢武司
蒲谷和行	大石 巖	裕 俊弘
植木正裕	別部尚司	佐藤文昭
中野 昭	沼田尚文	内藤恒夫
野口隆司	菅野 隆	近藤慎之
平松 隆	西脇 豊	石田和久
高村 宏	渡辺俊一	石井 敦
木原和喜	原 均	吉田 豊
植村貞道	荒木紘一	

上記氏名は関東ミドルボートクラブ会員です。



日本ミドルボート選手権1992 IOR Division 成績表

Sail No.	艇名	オーナー名	艇種	Rating	4/26 1レズ	4/26 2レズ	4/29 3レズ	5/ 2 4レズ	5/ 3 5レズ	5/ 4 6レズ	有効得点	順位	合計
3737	サンタグリーン	笠原 文和	TAK 1/2	21.97	25.00	28.00	23.00	43.88	25.00		144.88	1	144.88
3561	CA ET LA	沼田 尚文	FARR 3/4	24.55	29.25	27.00	0.00	42.00	28.00		126.25	2	126.25
3841	JUST 6	堀田 和正	YOK 33R	24.88	21.00	20.00	26.00	34.50	24.00		125.50	3	125.50
4379	再見 II	高橋 伸博	YOK 30SR	23.28	15.00	23.00	24.00	40.50	18.00		120.50	4	120.50
3306	RIPLLE III	碓 俊弘	YOK 30SR	23.47	26.00	17.00	22.00	33.00	22.00		120.00	5	120.00
4147	CHAR CHAN	木原 和喜	TAK 3/4	24.52	27.00	26.00	0.00	37.50	27.00		117.50	6	117.50
3002	SYLPHIDES	磯谷 和行	FARR 3/4	24.59	28.00	29.25	29.25	3.00	26.00		115.50	7	115.50
4324	APHRODITE Jr.	菅野 隆	YOK 32S	22.94	24.00	24.00	19.00	27.00	21.00		115.00	8	115.00
4128	海坊主	岡本 通	FARR 3/4	24.57	17.00	22.00	16.00	28.50	29.25		112.75	9	112.75
3825	ROUGE	船橋 秀夫	YAM 30R II	22.94	23.00	15.00	20.00	31.50	19.00		108.50	10	108.50
4040	SHADOW	梅本 寛	STE 31	22.35	10.00	25.00	21.00	39.00	0.00		95.00	11	95.00
3018	DONKY-IMPULSE	内藤 恒夫	X 3/4	24.56	5.00	3.00	28.00	36.00	23.00		95.00	12	95.00
3510	TRACER	三宅 智久	TAK 30F	22.30	18.00	16.00	18.00	19.50	17.00		88.50	13	88.50
1088	INDEPENDENCE V	平松 栄一	YOK 30SR	23.09	16.00	19.00	27.00	22.50	0.00		84.50	14	84.50
3714	風神丸	高橋 真明	YOK 31N	22.76	8.00	11.00	10.00	30.00	13.00		72.00	15	72.00
3839	海援隊	永田 敬二	HOL 33	24.58	20.00	13.00	13.00	13.50	12.00		71.50	16	71.50
3530	サマーノーズ	高村 宏	TAK 34	24.74	22.00	18.00	25.00	3.00	1.00		69.00	17	69.00
1155	一乗 III	青山 恒昌	YOK 31N	22.46	7.00	12.00	14.00	21.00	8.00		62.00	18	62.00
3055	SAMOA V	大石 巖	U 31	22.11	9.00	14.00	17.00	12.00	9.00		61.00	19	61.00
1978	SERENDIPTY	中野 昭	YOK 33R	24.97	19.00	21.00	0.00	18.00	0.00		58.00	20	58.00
2182	KELONIA	大谷 正彦	YOK 33	24.18	6.00	10.00	8.00	15.00	16.00		55.00	21	55.00
3838	カレント ネラ	高尾 和秀	X 3/4	24.54	14.00	6.00	15.00	3.00	15.00		53.00	22	53.00
3515	BEIM	小沢 達司	X 3/4	24.57	13.00	2.00	0.00	25.50	11.00		51.50	23	51.50
3414	ASIAN STORM	井上 一典	YOK 32S	22.91	11.00	7.00	12.00	3.00	14.00		47.00	24	47.00
3518	は組	野口 隆司	YAM 30R	22.71	3.00	1.00	9.00	24.00	6.00		43.00	25	43.00
1659	アスタマニアーナ	杉本 幸夫	TAK 30	22.32	4.00	8.00	5.00	16.50	5.00		38.50	26	38.50
4218	NAPOLEON	石田 和久	YOK 31N	22.76	12.00	9.00	6.00	3.00	7.00		37.00	27	37.00
381	八丈 V	近藤 祐之	KIH 34	25.52	1.00	4.00	7.00	3.00	20.00		35.00	28	35.00
3809	写楽	熱田 二士行	YAM 34R	25.23	2.00	5.00	11.00	1.50	10.00		29.50	29	29.50

日本ミドルボート選手権1992 CR Division 成績表

Sail No.	艇名	オーナー名	艇種	Rating	4/26 1レズ	4/26 2レズ	4/29 3レズ	5/ 2 4レズ	5/ 3 5レズ	5/ 4 6レズ	有効得点	順位	合計
4512	TAKE-1	武部 芳宣	SWING 34	8.10	33.25	33.25	29.00	49.88	33.25		178.63	1	178.63
4511	GUANDALINA III	嘉悦女子短大	フースト 38S5	8.95	29.00	27.00	30.00	48.00	26.00		160.00	2	160.00
2466	メルルサ	杉田 泰一	SWING 31	7.65	30.00	28.00	20.00	46.50	28.00		152.50	3	152.50
1118	BONANZA III	吉田 豊	YAM 31S	8.25	25.00	32.00	32.00	43.50	20.00		152.50	4	152.50
3749	STARBOARD Jr.	村越 一夫	YAM 31S	8.25	32.00	26.00	31.00	42.00	21.00		152.00	5	152.00
2690	くろしお IV	藤村 眞示	SWING 34	8.30	28.00	23.00	24.00	40.50	18.00		133.50	6	133.50
3545	NEW TOP CAT	高原 俊弥	MA 34	7.45	6.00	19.00	27.00	45.00	32.00		129.00	7	129.00
3213	CAPTAIN CARIBE	桜田 隆	YAM 30S II	7.10	26.00	21.00	26.00	27.00	25.00		125.00	8	125.00
3719	FLAMME	谷口 正一	N/M 9.5	8.65	31.00	0.00	33.25	33.00	27.00		124.25	9	124.25
3592	LAHAINA V	佐藤 文昭	SWING 31	7.65	27.00	0.00	25.00	34.50	31.00		117.50	10	117.50
4316	摩尼珠	吉田 比呂光	SWING 34	8.30	18.00	31.00	22.00	39.00	0.00		110.00	11	110.00
3639	クリストファー II	佐々木 康治	YOK 31N	7.15	20.00	25.00	14.00	28.50	19.00		106.50	12	106.50
3554	VALKYRIE II	今泉 健一	YOK 28	6.70	17.00	18.00	17.00	21.00	30.00		103.00	13	103.00
1733	UFO	川島 正通	YAM 30S II	7.10	24.00	22.00	10.00	30.00	16.00		102.00	14	102.00
4823	クレシェンド	山田 太郎	T 301	7.90	5.00	29.00	18.00	25.50	24.00		101.50	15	101.50
4091	HEART OF NIPPON	太田 祥一	FARR HRX	8.70	0.00	24.00	9.00	37.50	22.00		92.50	16	92.50
4469	未央	荒木 勉一	X 312	7.00	19.00	20.00	21.00	3.00	29.00		92.00	17	92.00
4280	SARA	渡辺 俊一	YAM 30S II	7.10	23.00	7.00	19.00	36.00	6.00		91.00	18	91.00
4577	ELFIN	松井 久芳	YAM 28S	6.65	7.00	4.00	23.00	31.50	23.00		88.50	19	88.50
4151	LIBRA	植村 秀則	X 99	8.85	12.00	17.00	16.00	24.00	15.00		84.00	20	84.00
3954	夕焼け小焼	西脇 豊	YAM 30S II	7.10	21.00	30.00	28.00	3.00	0.00		82.00	21	82.00
3967	カリビアン III	浜村 泰司	YAM 30S II	7.10	22.00	15.00	11.00	19.50	10.00		77.50	22	77.50
3593	運糧羅	矢嶋 藤彦	VAN 30	6.95	4.00	14.00	13.00	22.50	17.00		70.50	23	70.50
319	KAMAKURA II	鈴木 俊一郎	EDV 30 PB	7.35	9.00	12.00	8.00	18.00	14.00		61.00	24	61.00
4012	IF	石井 教	X 312	7.05	16.00	11.00	15.00	3.00	12.00		57.00	25	57.00
2967	HOLIDAY	馬目 徳男	YOK 29	7.10	10.00	13.00	12.00	13.50	0.00		48.50	26	48.50
3373	APHRODITE	菅野 進	GIBSEA 312	7.10	8.00	8.00	5.00	16.50	11.00		48.50	27	48.50
4448	SCHEDULE	市川 操作	SPRINT 9.5	8.50	15.00	16.00	0.00	12.00	5.00		48.00	28	48.00
3426	ダンスオブマジック	疋田 淳	SWING 28	6.60	14.00	9.00	7.00	3.00	13.00		46.00	29	46.00
3840	DREAM DREAM DREAM	佐藤 篤史	YAM 30S	6.90	13.00	10.00	6.00	3.00	7.00		39.00	30	39.00
1985	波勝	佐藤 勝	SK 32	7.20	1.00	5.00	1.00	15.00	8.00		30.00	31	30.00
4018	華子 III	樋口 亮一	オーグレット 26	6.85	11.00	6.00	0.00	3.00	9.00		29.00	32	29.00
3990	URSA MAJORS	尾上 俊樹	N/M PC34	8.20	0.00	3.00	0.00	1.50	4.00		8.50	33	8.50

ナイス
ス
ー
リ
ン
グ
の
予
感
。



ヨット・モーターボート総合保険

東京海上火災保険株式会社
住友海上火災保険株式会社

お問合せ先：会員代理店またはNORC保険デスク（フリーダイヤル0120-024-410）



海の遊びを知るクルーザー。

走るたびに、こころは静かに満たされてゆきます。厳選されたチーク素材の質感が、海で過ごす時間を贅沢に演出。
独立した3つの空間、使いやすさが考慮された2つのトイレルーム、そしてギャレー、ホトルラック、
CDチェンジャー付4スピーカーオーディオは、ゆとりあるマリンライフを提供します。
また、イージーセイリングを実現したコックピット・レイアウトは私たちに、ヨットを操る遊びを思い出させてくれます。
YAMAHA 40EX。本当の海を、知っています。



メインキャビン(後方)



ギャレー

YAMAHA 40EX NEW

主な標準装備: 大型メインサロンソファ / チーク製マストカバー / キャビンテーブル / 40ℓ温水器
アイスボックス / ベデスタルステアリング / フォールディング式コックピットテーブル

- 全長11.98m ●水線長10.00m ●全幅3.89m ●吃水2.20m ●完成重量7,200kg
- バラスト重量2,740kg ●全セイル面積67.8㎡ ●バース数6 ●定員14名(平水) ●航行区域 遠洋

■ 沿海標準価格例 ¥37,993,000円

※4JH2BE付。法定安全備品が含まれています。
オプション、船舶検査費用、運賃、消費税は含まれていません。



コックピット(後方)

FOR GOOD MARINE LIFE!

安全がマリンスポーツの基本です。

北海道ヤマハ株 ☎011-612-1060 ヤマハ関西株 ☎06-535-1671
ヤマハ東北株 ☎022-235-1031 ヤマハ中国株 ☎082-285-4911
ヤマハ東京株 ☎03-3444-9971 ヤマハ四国株 ☎0878-67-3800
ヤマハ中部株 ☎052-913-2121 ヤマハ九州株 ☎092-472-5261
ヤマハ熊本株 ☎096-357-7161
●カタログと希望の方は、船名・船種を明記の上、下記まで。
〒438 静岡県磐田市新員2500 ヤマハ発動機株式会社 広報室宣伝課

海で会いましょう

Catch the Summer '92(7/31まで)

キャンペーン期間中、ご成約の方には素敵なプレゼントを差し上げます。
お問い合わせは左記またはヤマハマリンプラザ・マリンショップまでどうぞ。